

2024年9月15日（日）第二礼拝「御霊が臨まれる時」使徒の働き1章8節

父・御子・御霊は三位一体の神様であり、常に共に働かれています。旧約時代には神様は上から人々を導かれましたが、新約時代にはイエス様が私たちのそばに来られました。イエス様の名はインマヌエル(神は私たちと共におられる)です。イエス様は私たちの罪を背負って十字架で死なれ、復活して昇天され、聖霊を私たちのうちに入れてくださいました。

第一番目、聖霊が臨まれると新生(再出生)します。イエス様はニコデモに「人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることができません。」と言われました(ヨハネ3章)。しかし、ニコデモは理解できませんでした。続けてイエス様は「水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることができません。肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。」と答えられました。第一の出生は母親から生まれることですが、第二の出生は聖霊から生まれます。私たちはイエス様を信じて御霊によって生まれました(再出生)。それを聖書では救いと言い、天国に入る永遠のいのちであります。イエス様は弟子たちに「父の約束(聖霊のバプテスマ)を待ちなさい。」と言われました(使徒の働き1:4~5)。イエス様の昇天後、弟子たちは十日間祈りに専念していましたが、ペンテコステの日について聖霊が臨み、彼らは出て行き大胆に福音を語ったのです。弟子たちは聖霊のバプテスマに始まり、聖霊に満たされ続けました(聖霊充滿)。そのような中で教会が生まれていきました。「…終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。」(使徒の働き2:17) 確かに父の約束は実現されたのです。

第二番目、聖霊の力を受けます。お酒に酔うことは放蕩に繋がりますが、聖霊に満たされるようにとパウロは助言しています。お酒を飲み続けると、お酒のことが頭(思い)から離れなくなり、行動に繋がって中毒になります。更に感情(鬱、怒り、失望など)が捕らえられ、自分が何をしたか分からなくなる段階にまで至ります。エゼキエル47章でエゼキエルは神殿から流れる水を測りました。一千キュビト測るとその水は足首までになり、測る度に膝、腰、最後は泳げるほどになりました。このように聖霊(水)に自分を任せて、完全に従順する時、聖霊の力が私たちの人生に現れ、イエス様の行われたわざや、更にそれよりも大きなわざを行うことができます。この聖霊の力を受けて多くの指導者たちは何千何億人もの人々を救いに導きました。「信じる人々には次のようなしるしが伴います。わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばを語り、蛇をもつかみ、たとい毒を飲んでも決して害を受けず、また、病人に手をおけば病人はいやされます。」(マルコ16:16~18)

第三番目、神の国の証人となります。証人とは自分の見聞きしたことを証言する者ですが、私たちの中には聖霊がおられるので力を受けて人々の前でイエス様について証言することができます。北朝鮮では命懸けで福音を語る者達によって沢山の人が救われました。イランやイエメンなどイスラム国家も現在リバイバルが起こっています。私たちもまた聖霊の力を受けて日本のリバイバルのために用いられるように祈りましょう。アーメン！